

ついて御教示下さった小倉滋，高橋邦明の諸氏にお礼申し上げます。

〈 参 考 文 献 〉

- 1) 岩村 巖・中谷貴寿(1964)西播の蝶分布資料(3), 兵庫生物 4(5): 288
- 2) 小倉 滋・高橋久夫(1978)三木市内の蝶について きべりはむし 6(1・2): 11
- 3) 加藤昌宏・武衛晴雄(1981)神戸市の蝶 神戸市立教育研究所 兵庫
- 4) 木下賢司(1979)床ノ尾山の蝶 IRATSUME (3): 29
- 5) 高橋 匡(1979)但馬地方昆虫目録 IRATSUME (3): 51
- 6) 田中利典(1969)六甲山・摩耶山の蝶 MAIMAI (1): 5
- 7) 丹波昆虫研究会(1957)丹波の蝶 丹波昆虫(3): 12
- 8) 日浦 勇(1969)日本列島の蝶 大阪市立自然科学博物館収蔵資料目録第1集 大阪
- 9) 広畑政己・佐々木董(1982)兵庫県南西部に於けるミスジチョウの分布 ひろおび(6): 35-37
- 10) 広畑政己(1980)兵庫県に於ける蝶 5種の新産地 てんとうむし(6): 30
- 11) 三木 進(1979)六甲山系(西部)の蝶 きべりはむし 7(1): 5
- 12) 山本広一(1971)兵庫県の蝶相 月刊むし(3): 8
- 13) 吉阪道雄(1948)ミスジチョウを我庭(御影町)で採集する MDKNEWS 1(2): 14
- 14) 吉田 豊(1981)三田市乙原地区の蝶 てんとうむし(7): 48

MASAMI HIROHATA 姫路市打越 1343-259

SHINICHI KONDO 神戸市垂水区岩岡町岩岡 619-57

兵庫県のジョウカイモドキ (兵庫県甲虫相資料・110)

高 橋 寿 郎

日本産のジョウカイモドキに関する総合的な研究は残念ながら現在見当らない。従って日本産のこの科のものがどれだけいるのかもよくわからない(中根博士によると概数30となっている, 1972。筆者が手許にある文献を基に目録を作製した所現在の日本産としては40種が数えられた)。

中根博士が"あきつ"誌上に発表になられた"クサジョウカイ類の概説"(5巻, 3号, 1956。6巻, 1号, 1957)並びに原色での22種の図説(原色昆虫大図鑑, 1963)によって兵庫県産

のものは、同定出来るので現時点での県下のこの類の分布状況をながめて見ることにした。

Family Melyridae ジョウカイモドキ科

1. *Ebaeus chlorizans* Kiesenwetter, 1874 ルリヒメジョウカイモドキ
Kiesenwetterにより "Japonia" を産地に記載された種である (Berl. Ent. Zeit.,
18:286, 1874)。黒色で上翅は藍色。触角基半, 脚は黄褐。体長, 2.5 mm。

注意すれば多くいるように思われるが記録が案外少ない。

産地: 神戸市烏原 (5 exs., 11-V-1980)*。氷上郡〔山本, 1958〕。

2. *Ebaeus oblongulus* (Kiesenwetter, 1874) クギヌキヒメジョウカイモドキ
本種は Kiesenwetter により "Japonia" を産地に *Hypebaeus* 属で記載された種である
(I. C., P. 287, 1874)。中根博士は Wittner 博士の私信で *Ebaeus* 属のものであることを
記しておられる (1956)。

長形で黒褐, 触角, 肢, ♂上翅縁後端は淡色, 体長 2.5 mm

本種は神戸市内では大変多くいる。県下での記録は今迄無かったがこれは注意が足りなかったか
らだと考えられる。花に来ている。

産地: 神戸市太山寺 (1♂, 2♀, 3-V-1967), 烏原 (2♂, 1♀, 18-V-1975, 1♂,
11-V-1975, 3♀, 11-V-1977, 4♂, 1♀, 3-V-1979, 1♂, 1♀, 7-
V-1979, 1 ex., 16-V-1979, 1 ex., 24-V-1979, 1♂, 19-V-1980,
1♂, 29-V-1980, 1♂, 1♀, 23-V-1981, 1♂, 1♀, 25-V-1981, 1♀,
16-IV-1982, 2♀, 22-IV-1982, 1♀, 5-V-1982, 2♀, 13-V-1982,
1♀, 29-V-1982, 1♂, 16-V-1982, 1♂, 11-VI-1982, 1♂, 18-V-
1982, 1♀, 30-VI-1982)。

3. *Ebaeus picticollis* Kiesenwetter, 1874 キムネヒメジョウカイモドキ
Kiesenwetter により "Nagasaki" 原産で記載された (I. C., P. 287, 1874)。黒褐
色であるが頭前半, 上翅端, 触角, 腿節を除く肢は橙黄。割合ははっきりした色彩で他種と区別出来
る。中根博士の原色図説がある (1968)。体長 2.5 mm。

兵庫県下での記録のなかった種。神戸市内で採集された。恐らく本種も注意が足りないからであ
ろう。

産地: 神戸市烏原 (1 ex., 23-VII-1982)。

4. *Attalus drouardi* Pic コヒメジョウカイモドキ

黒くてやゝ金銅光沢および, 上翅はかすかに緑光沢がある。触角, 肢は淡褐。体長 3 mm。

* 産地のところで〔〕の中のものは文献からの引用, ()の中のものは筆者所有標本である。

北部方面での記録があるが余り知られていない。もっと産するように思われる。

産地：豊岡市妙楽寺〔高橋，1975〕。城崎郡蘇武岳〔高橋，1975〕。

5. *Attalus japonicus* Kiesenwetter, 1875 ヒメジョウカイモドキ

Kiesenwetterによって"Japonia"を産地に記載された種である(I. C., P.286, 1875)。

黒色で藍光沢をおび、肢、触角は黄褐、上翅は点刻され、翅端は凹んで立毛を具える。体長8mm。

幼虫と蛹に就いては林博士の報文がある(あきつ，10巻，4号，P.15-19, 1962)。

兵庫県下では普通にいる種である。

産地：川西市笹郡〔仲田，1978〕。宝塚市武田尾(4 exs., 25-VI-1954)。神戸市二十

浜(1 ex., 26-VI-1955)。多可郡鳥羽(6 exs., 19-VII-1975)。朝来郡生野

(1 ex., 8-VII-1956)。養父郡田淵山(1 ex., 5-VIII-1975, M. Yuma leg)。

美方郡扇の山〔高橋，1975〕。

6. *Malachius prolongatus* Motschulsky ツマキアオジョウカイモドキ

暗緑色で光沢は鈍く、時に藍色をおび、体下は緑藍色、頭部前方、口部、触角基部下面及び中部、前肢及び膝部、上翅端、前中胸側部下面等は黄色である。

林、竹中氏によって幼虫の図説があり(あきつ，8巻，4号，P.73-76, 1959)、林博士は産卵習性について記しておられる(甲虫ニュース，№21/22:10, 1974)。

本種も県下に極めて多く産する種である。花上に多い。

産地：三原郡論鶴羽山〔堀田，1978〕、川西市山原、一の鳥居、笹部〔仲田，1978〕。

神戸市保久良山(1 ex., 1-V-1975)、鳥原(1 ex., 29-IV-1970, 1 ex., 17-V-

1970, 1 ex., 23-V-1971, 1 ex., 9-V-1971, 1 ex., 14-V-1972,

1 ex., 22-IV-1980, 1 ex., 1-V-1980, 1 ex., 17-IV-1981, 1 ex.,

9-V-1981, 1 ex., 7-VII-1981, 2 exs., 22-IV-1982, 1 ex., 16-V-

1982, 1 ex., 25-V-1982)、山の街(1 ex., 29-IV-1959, 1 ex., 5-V-

1958, 1 ex., 7-VII-1959)、谷上(2 exs., 29-IV-1958, 2 exs., 3-V-

1967)、妙法寺(1 ex., 24-IV-1979, 2 exs., 30-IV-1979)、多可郡白山

(3 exs., 27-V-1973)、鳥羽(1 ex., 1-VII-1975, 1 ex., 8-V-1976)、

飾磨郡家島(1 ex., 26-V-1978)〔上田，1981〕。神崎郡大河内町川上(1 ex.,

21-V-1977)。相生市三濃山(1 ex., 3-V-1969, 4 exs., 7-V-1972,

2 exs., 12-V-1974, 1 ex., 18-V-1974)。養父郡水ノ山〔高橋，1975〕。

7. *Laius histrio* (Kiesenwetter, 1895) ヒロオビジョウカイモドキ

KiesenwetterによってLajus属で"Kiushiu"を産地に記載された種である(I. C., P.283-284, 1895)。LewisはLaius属として記録している(1895)。

黒色，前胸側部は細かく弱く点刻され，上翅には巾の広い橙色の横帯があつて白く縁どられ，会合部で狭まる。触角，肢は黄褐色。♂の触角は第8節が大きく異形。体長2.5～3mm。

上翅の横帯は黄白色で、狭いものを *ab. kiesenwetteri* Lewis と言う。注意すれば見つか。分布は本州，四国，九州，兵庫県下には広く普通に産する。

産地：川辺郡猪名川町槻並（1 ex., 2-VII-1978）。川西市笹郡〔仲田，1978〕。宝塚市武田尾（1 ex., 25-VII-1954）。神戸市鳥原（1 ex., 30-VI-1963, 1 ex., 31-VIII-1969, 1 ex., 29-VIII-1970, 1 ex., 19-VIII-1970, 1 ex., 8-VIII-1971, 1 ex., 6-VIII-1972, 1 ex., 10-VIII-1974, 5 exs., 11-VII-1976, 1 ex., 5-IX-1976, 1 ex., 19-VI-1982, 1 ex., 26-VI-1982, 2 exs., 27-VI-1982, 2 exs., 5-VII-1982, 1 ex., 9-VII-1982, 1 ex., 17-VI-1982, 2 exs., 13-VII-1982, 3 exs., 15-VII-1982, 1 ex., 22-VII-1982, 1 ex., 27-VII-1982, 2 exs., 5-VIII-1982, 1 ex., 9-VIII-1982）藍那（1 ex., 14-VII-1978），妙法寺（1 ex., 28-III-1979）。朝来郡生野（2 exs. 4-VIII-1957）。宍粟郡音水（1 ex., 15-VII-1978）。

8. *Laius niponicus* Lewis, 1895 クロキオビジョウカイモドキ

Lewis によって "Hakodate sand-hills; also at Kobe" を産地に図入りで記載された種である (Ann. Mag. Nat. Hist. 6, XVII: 116, pl. VI, fig. 8, 1895)。

黒色，前胸両側は密に皺状に点刻され，上翅は両側，会合部で拡がる黄色横帯を具え，肢は赤褐，腿節のみ暗色。体長3.5mm。

県下での記録が案外少ないが調査不充分だと思ふ。もっといそうな気がする。

産地：Kobe〔Lewis, 1895〕。赤穂市天和〔1 ex., 25-IX-1974〕。氷上郡〔山本，1958〕。

9. *Laius pellegrini* Pic キアシオビジョウカイモドキ

黒色，前胸両側に皺状に点刻され，後方に横溝がある。上翅は黄色横帯を具え，両側会合部で拡がる。脚は黄褐。体長3.5mm。ヒロオビジョウカイモドキによく似る種である。

県下での記録は次の1つだけであまり良く分布がわからない。

産地：豊岡市妙楽寺〔高橋，1975〕。

10. *Dasytes japonicus* Kiesenwetter, 1875 アオグロケンジョウカイモドキ

Kiesenwetter により "Nagasaki" を産地に記載された種である (I. C., P. 288. 1875)。中根博士の図説がある (1963)。分布は本州，九州。兵庫県下の記録は少い，もっといそうに思われる。

産地：相生市三濃山（1 ex., 6-V-1973, 1 ex., 14-VI-1974）。養父郡氷の山〔高橋，

1975], 美方郡扇の山〔高橋, 1975〕.

11. *Dasytes vulgaris* Nakane, 1963 ケシジョウカイモドキ

中根博士によって“奥日光, 上高地, 扇雲峡(北海道)”を基産地に記載された種である(Frag. Coleop. Pars. 12:47, 1968). 本種も同博士によって原色で図説されている(1968).

県下の記録は次のものを知るのみである。

産地: 美方郡扇の山〔高橋, 1975〕.

以上一応11種の県下産ジョウカイモドキを記録した。一般に余り注意されていないグループであり筆者の調査も不十分である。特に海浜性の種などの調査は必要であろう。更に詳しい調査をやらな
いといけないと考える。(Sept. 1982)

宝塚市内におけるナガサキアゲハ春型の採集報告

新 家 勝

1980年夏頃から、阪神間でナガサキアゲハの採集された記事が、新聞誌上に度々、掲載されるようになったが、春型の採集例はなく、本種が年間を通じて阪神間で発生しているかどうかは疑問視されていた。ところで、1982年に筆者は、宝塚市内で本種の春型1♂を得たほか、同市内および近接地域で目撃したので、その状況を報告する。

(1) 1980年の春型採集および目撃記録

- ア 1980. 5. 9 伊丹市昆陽大池で昆陽池公園内のタニウツギに飛来した新鮮な1♂を目撃した。
- イ 1980. 5. 9 宝塚市逆瀬川1丁目で、飛翔中の新鮮な1♂を筆者の長男が目撃した。
- ウ 1980. 5. 10 宝塚市野上2丁目で、モチツツジに飛来した新鮮な1♂を筆者の長男が採集した。標本は筆者が保存している。

(2) 参 考

1980. 5. 10 前後に、幾つかの新聞紙上に掲載された記事から、参考までに阪神間におけるその他の採集例を紹介すると次の通りになる。

- ア 1982. 5. 8 尼崎市塚口苅分で1♀が採集された。(57. 5. 11朝日新聞朝刊および57. 5. 11読売新聞朝刊)
- イ 1982. 5. 9 西宮市段上町3丁目で1♂が採集された。(57. 5. 11朝日新聞朝刊)
- ウ 1982. 5. 12 西宮市田近野町で1♀が採集された。(57. 5. 11毎日新聞朝刊)